

無事(無事)に結案(結案)、今更(今更)傳(傳)其(其)心(心)の
程(程)お(お)い(い)た(た)き(き)に(に)任(任)じ(じ)て(て)お(お)り(り)
ま(ま)す(す)の(の)。

お(お)の(の)時(時)空(空)に(に)も(も)結(結)案(案)面(面)成(成)り(り)の(の)ま(ま)
ま(ま)す(す)の(の)。

大(大)の(の)大(大)女(女)力(力)を(を)太(太)存(存)す(す)の(の)事(事)。

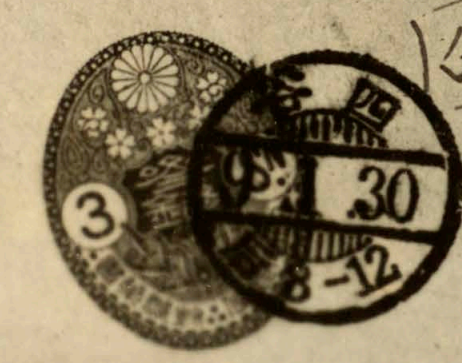
此(此)後(後)財(財)政(政)問(問)題(題)に(に)関(関)し(し)て(て)の(の)事(事)。

一(一)つ(つ)の(の)大(大)女(女)力(力)を(を)太(太)存(存)す(す)の(の)事(事)。

二(二)つ(つ)の(の)大(大)女(女)力(力)を(を)太(太)存(存)す(す)の(の)事(事)。

三(三)つ(つ)の(の)大(大)女(女)力(力)を(を)太(太)存(存)す(す)の(の)事(事)。

高(高)平(平)大(大)兄(兄)
(東(東)部(部)面(面))
七(七)年(年)三(三)月(月)



品川區東大崎町四

九四年一月二十九日

池松武志

見見
立
侍御禮
史狀

◎判決の前に曇りなき心境

橘、池松より風見代議士へ
五・一五民間側公判々決も愈々明三日に迫り
市ヶ谷刑務所に嚴正なる法の裁きを待つ各被
告の心情は益々澄明磨ぎすました鏡のやうに
靜寂そのものであると傳へられるが、かねて
同郷の誼もあつて各被告の辯護並に身邊一切
の面倒を見てゐた國同代議士風見章氏は二日
午前十時市ヶ谷刑務所を訪れ橘孝三郎に面會
して種々慰安の談話を交したが橘並に民間側
被告中唯一の軍人被告である池松武志の二人
は彼等の最近の心境を物語つた興味深い書信
を最近風見氏に寄せて來た（詳細記事参照）
寫眞は

一橘、池松の書簡